

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1273600377		
法人名	社会福祉法人 北斗泰山会		
事業所名	グループホーム あいや		
所在地	千葉県印西市草深1132-8		
自己評価作成日	平成28年12月16日	評価結果市町村受理日	平成31年2月6日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>地域に開かれた施設として地域の住民や見学に来られた方々に随時相談に応じている。                  入居者の方の嗜好に合わせてケータリングを開催している。                  月行事・誕生会を毎月開催して楽しんで頂いている。                  開かれた施設として身体拘束ゼロを実施、継続している。                  入居者同志の繋がりを重視し、1階と2階の入居者の交流を盛んに行っている。                  歌、レクリエーション、体操を日課に取り入れ、入居者のADLの維持、向上に取り組んでいる。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	平成31年1月16日		

<p>1.北総公団線千葉ニュータウン中央駅から車で5分(徒歩20分)の幹線道路沿いに立地した鉄筋コンクリート造り2階建てホームです。建物内は日当たりもよく、全体的にゆったりしており、敷地内の適度の広さの畑では、農作業の好きな利用者が職員の畑作を手伝っており、四季の収穫物は皆で賞味しています。堅固な建物は東日本大震災でも被害にあわず、設置された自然エネルギー発電設備が作動する等、利用者・家族に安心感をもたらしています。</p> <p>2. 明るく家庭的な雰囲気の中、利用者は毎日自分のペースで元気に過ごしています。職員は利用者本位のサービス(毎日の体操、散歩、会話、カラオケ、歌、フラダンスの練習(10名で本部の納涼祭に参加)、数多くの行事食、口腔ケア等)を行っており、各種改善事例が見られる等、入居時の健康状態維持に努めている状況が窺え、リビングからは楽しそうな歌声や笑い声が聞こえます。</p>
--

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1F・2F入り口に理念を掲示。目の付く所に掲示し、意識の共有を図る。申し送り時に唱和をし、意識の向上を図る。	グループホーム主旨の地域密着性を織り込んだ理念を1階・2階に掲げ、毎日の申し送り時や月1回の職員会議時に唱和し、職員は日ごろのサービスで実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に開かれた施設を目指して随時、見学や相談に応じている。近くのお店に買物に出かけたり、散歩に出かけた際、地域の方々に挨拶をしている。一年1回幼稚園児との交流会を持つなど幅広く交流を持っている。	自治会活動があまりない土地柄ですが、施設長は地域密着の意義を理解し、地域との交流に努めています。散歩時の挨拶、馴染みの商店での買い物、ボランティアの受け入れ、大学生の職場体験受け入れ(2、3月頃予定)の他、運営推進会議に自治会長、民生委員も出席しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にある大学の福祉課の実習生を受け入れ、入居者との関わりを持ってもらい認知症の理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況や今後の予定他、毎回のテーマに沿って全体で話し合っている。	会議は、市担当、自治会長、民生委員、家族、運営法人責任者、職員で、定期的に年6回開催しています。議題に、入居者及びサービス状況、ヒヤリハット・事故報告、身体拘束廃止員会、行事予定、ターミナルケア、感染症対策等を取り上げ、活発に意見交換し、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の来訪や運営推進会議での状況報告。アドバイス、必要に応じて連絡を行っている。	市担当が毎回運営推進会議に出席し、意見や情報を提供しているので、十分な協力関係が築かれていることが窺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会に参加し、職員全員で知識を共有して身体拘束ゼロを実践している。入居者の見守りを徹底し、施錠せずに支援を行っている。	玄関はセンサー付きで、昼間は施錠していません。市の指導で身体拘束廃止委員会を年3回以上運営推進会議時に開催する他、県・市の研修会には必ず職員に代表で受講させ、その内容を毎月の勉強会で他の職員に周知しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会へ参加し、勉強会で報告した内容を職員全体で共有する。朝の申し送り時など随時話し合いを持ち、虐待のない施設を実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	抑制や虐待に関する勉強会や会議の際に併行して行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約内容と重要事項説明書の内容を説明後、ご家族の方には一度自宅へお持ち帰って頂き、納得頂いた上で署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は来所時や電話で直接伺っている、話づらい内容については意見箱を玄関に設置し利用して頂く。	家族からは来訪時(殆どの家族が来訪)、電話連絡時、行事参加時、運営推進会議時に意見・要望を聞き、運営に反映させています。利用者については毎月介護相談員が1名来訪・聞き取りし、報告書を出しており、施設はそれを運営に役立てています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議等で意見交換を行う。又、朝の申し送り時に話し合いを持っている。	施設長、管理者は、日ごろ職員から何でも言える雰囲気を作っています。又職員の就業時、申し送り時、職員会議時(月1回)、個人面談(年1回)等で意見・要望を聞き、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出産育児休暇、資格手当、処遇改善給付金、賞与、労働賃金の向上などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	案内を頂いた際、その職員の希望に合わせた研修を行っている。(救急救命、身体拘束、レクリエーション研修、実務者研修、高齢者虐待防止研修等)。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の管理者会議やグループホーム会議においてサービスの向上に繋がるよう話し合いを行っている。地域の居宅介護支援事業所や病院への連絡や現状に対する相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の際には、ご本人からの主訴や現在の困っている事を聞きケアプランを作成しています。ご本人が安心して暮らせるよう毎日の関わりの中からスタッフ間でも情報の共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から利用者様の方への連絡を取り状況を把握し、実際にお会いしお聞きした情報をケアプラン作成に繋げ、ホーム側とご家族側での情報の共有を図り、信頼の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族から得た情報から今必要と思われる事をケアプランに反映させています。生活の中で必要と思われるケアをその都度、ケアプランに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの理念に基づき、共同生活の中で職員と共に作業をしたり、家庭的な雰囲気の構築を目標に関わりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の状況に変わりがある時は必ず電話連絡をする。場合によってはおいで頂き、キーパーソンだけでなく、親族の方とも話しあいをし、今後のケアをご家族と共に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚の方との外出や外泊は勿論、遠方の方とはご本人の携帯電話や施設の電話等で、やりとりが出来る様に努めている。又、馴染みのスーパーや馴染みの病院・歯科医院に出かける事で関係が続くように心掛けている。	利用者は、平均月1回は娘や息子の訪問を受けて談笑しています。週に3回程訪問を受ける人もいますが、高齢になって来られなくなった家族や近くでも時間が取れない人には、電話で家族の声を聞けるようにしたり、職員が家族に近況を伝える支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入る事で利用者様同志が友好的な関係で生活出来るように支援して行く。1階と2階の利用者の垣根がなく、様々な場(行事やレク、おやつなど)で交流ができる体制を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も他施設や病院などの機関への紹介、情報の共有や連携に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の意向を尊重し、その人らしい生活が送れる様にスタッフ全員で情報を共有する。日々の申し送りや会議などで話し合いを行っている。	利用者が欲している状況を把握して支援にあたる様になっています。ほとんどの利用者は言葉で思いを伝えられますが、コミュニケーションが困難な利用者も3~4人あり、その場合、言動や表情を読み取って適切な支援となる様に、職員間で話し合い、サポートしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人からの情報や利用されていたデイサービス、居宅介護支援事業所等からのフェースシートにて把握しています。会話の中から得た情報など記録し活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での観察・定期的なバイタル測定や、訪問看護と医師との情報の共有と連携で現状把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・施設管理者・計画作成者と話し、医師と訪問看護からの医療面での情報も反映させたケアプランを作成している。	入所後1~3ヶ月の間に個別支援計画書を作成し、その後半年毎に短期目標、1年毎に長期目標を更新しています。3か月毎にモニタリングして、利用者、家族、職員(観察情報や記録により)、医療関係者の意見を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録へ記録した、個別に利用者情報を作成し申し送りや会議で情報を共有しケアや介護計画の作成に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科受診、整形外科受診、買物などご本人の訴えに対し、ご家族と相談の上、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護事業所、協力病院、協力施設、消防団との関わりをもちながら、安心できる事を目標に支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内に診療所があり、ご本人・ご家族へ説明、納得のもとで受診しております。かかりつけの病院受診はご家族付き添い、専門医の必要がある時は情報提供・紹介状を作成している。	月2回内科医の訪問診療で利用者の健康が管理されています。家族が通院支援している利用者が2名いますが、それは歯科受診がほとんどです。職員が月1～2回ほど通院支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のケアから必要に応じて相談・連絡・報告を行っている。訪問看護と協力体制のもと支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供による病院側とホーム、法人診療所にて情報を共有し、管理者は病院のソーシャルワーカー、ご家族と連絡や実際に会い今後のケアを考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重要事項説明書にて急変時の対応を確認し、状態が憎悪した場合、再度ご家族と検討を行っています。管理者がNSであることや法人内診療所もあり、ご希望によってターミナルケアを行っている。	入居時に、重度化や終末期の対処方法についての同意書を交わしており、昨年も2名の看取りを行っています。医療職の協力を得て、入浴が困難になってもベッド上清拭や嚥下能力があれば形態別食に切り替えて対応するなど、医療行為を行わない範囲で看取りの支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事の連絡順の表作成、勉強会等で対応の実践力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(年度)以上の災害訓練(避難誘導・通報・消火など)や消火設備の立入り検査にて避難方法などの訓練を行なう。又、地元消防署や消防団との協力体制を整えている。	防火訓練は、11月に自主訓練(通報・消火・避難誘導)を行い、3月に消防署立ち合い訓練(夜間想定を含む)を予定しています。スプリンクラー(はじめ消防法に定められた防火装置・機器も完備し、水3日分、食料7日分の備蓄の他、自然エネルギー発電設備も備えています。	最近各種災害が多発していることを考え、関係者で話し合い年1回災害訓練を実施し備蓄(数量)を見直すこと、災害用品(防災頭巾等)や非常時持ち出し品(処方箋等)を準備することが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関わる情報は利用者様や来客者の前では話さない。呼応は〇〇さんで統一。人格の尊重やプライバシーについては会議等で共通理解を図る。	職員は「プライバシー保護」に関する研修を受けて、トイレ介助や入浴介助時は特に同性介助にする等、利用者の羞恥心に配慮した対応をするようにしています。また、掲示物の表示や言葉かけなどにも注意を払っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活では入浴や受診など、ご本人に勧める形の声掛けを行い、自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間や曜日による決まりは設けていない。入浴日や時間、外出のタイミングなど、できるだけ1人1人がご自分のペースで過せるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の際は髪染めなど本人の希望や家族の意向を尊重して行っている。ご自分で管理できる方は装飾品、化粧品等を自己管理して頂いている。管理できない方は職員が本人らしさを考え、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査、1人1人の体調や嚥下・咀嚼に合わせた食事提供、料理の配膳や手伝い等可能な範囲内で行っています。	食材は業者からの配送です。食事の全介助者は1名、要介助者が3～4名いますが、歌等で摂食機能を維持させて自力摂取を支援しています。七草粥、鏡開き、節分、節句等年中行事を大切に食事の提供、年3～4回の出前やケータリング、敷地内畑の四季の収穫等で食事を楽しむ支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者作成による献立表、全ての入居者様の1日の食事水分摂取表を使用し、状況に応じて捕食やを行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後口腔ケアを行っている。ご本人の状態に応じて介助を行っています。舌の清掃や歯間ブラシの活用、入歯接着剤の活用など嚥下機能低下を防ぐとともに誤嚥・肺炎防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様1人1人の排泄表があり、そこから排泄パターンを把握、時間ごとの声掛けを行っています。夜間帯、間に合わず失禁される方に対してはポータブルトイレの使用も検討している。	基本は3時間ごとに声掛けを行っていますが、尿意があっても一人で排泄の可能な自立者は約半数います(おむつ利用者は1名)。紙パンツやパッドで生活している人に対しても、失禁等がある場合はさり気なく誘導して支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の改善、腸内環境を整える為毎日10時のおやつ時に牛乳やヨーグルトを提供、運動不足解消の為、毎日の体操を行っている。歩行可能な方は散歩や館内のウォーキングも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけご本人の希望に添った入浴を行っている。時間を決めずにその時々の状況に応じ入浴して頂いている。拒否が続く時は清拭やドライシャンプー、シャワー浴などを行っている。	入浴日は一人週2回程ですが、好きな時に入れるようにしています。1日3～4人を30～40分かけて支援し、浴槽を跨げない入浴困難な場合等はシャワー浴(3名)にしています。柚子湯や菖蒲湯などお風呂の楽しみを大切に支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思を尊重し就寝時間はご入居様によって異なる。昼間も個人の時間を尊重し、静養いただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ADLチェック表に内服薬と効果を記入、用量について台所脇に掲示。状況の変化をケース記録と申し送りで周知。変化がある時はDrに報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物畳み簡単な清掃、草とりや野菜の収穫、草花の剪定、もやしの芽を取るなどその方に出来る範囲の役割を持ち、はりのある生活を送っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や外出はご家族の協力により実践している。出かけられない方は行事を通して外出の機会を設けている。希望者には天候を見計らい散歩に出かける。又転倒のリスクが高い方達に対しては職員付添の上、施設内や中庭のウォーキングをして頂いている	日常生活の一環として散歩や外気浴を実践したり、回廊になった廊下を歩行したり、裏庭の畑の野菜栽培などで外に出て体を鍛えています。家族が外食に誘ったり(3～4名)、1/3の人がお正月に1泊帰宅したりしています。又、利用者10人が、少し遠出になりますが本部主催の納涼祭に参加し、フラダンスを披露しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承のもと、少額のみ自己管理対応です。その他は事務所で管理である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使ったり、個人管理の携帯電話を使用されています。ご家族の協力で友人との手紙や年賀状を出される方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の中庭がある為、全体的に明るく、季節ごとの花や飾りをしている。季節感あふれる環境づくりをメインに歌詞や写真なども活用し居心地の良い空間を心掛けている。	リビング兼食堂は、日当たりもよく、明るく、清潔で、ゆったりしており、温度・湿度も調節され、利用者が居心地よく過ごせる様になっています。壁には亥の年表示のプロ並みの切り絵や、行事写真、季節の飾りがあり、季節感、生活感を感じます。利用者は、日中ここで過ごしており、時々、歌や笑い声も聞こえます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間で、職員による体操・レク以外には皆様、自由に過ごされている。居室で好きなテレビを観賞したり横になられている方も見受けられます。利用者の時間を尊重し有意義な時間を過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけご本人が使い慣れた物をご準備いただき、自宅と同じ生活が継続できるように努めています。	居室は、エアコン、クローゼット、洗面台が添え付けで、ベッドは原則持ち込みです。利用者は馴染みの物を持ち込み、自分の家にいるのと同じように過ごしています。最近入居した数人の利用者の、家具・調度品・飾りのセンスの良いコーディネートと対応ぶりには、利用者の安心感・満足感・自信が窺えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別ケアを基本に1人1人にあわせたケアを目標としています。		